

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長	谷本 直子	生徒指導主事	中尾 美和
取組事例名	『150周年をみんなで盛り上げよう』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
全校で創立150周年を祝い、盛り上げることを通して、自分達の学校に誇りをもち、自分も学校を支える一員として大野東小学校をよりよい学校にしていきたいという意欲をもたせる。	大野東小学校の歴史やよさを再確認し、その伝統を受け継ぎ、式典を盛り上げるために、自分達に何ができるかを考え、実践するために友達と協力し、進んで解決に向けて取り組む児童。（課題発見・解決力）（協調性）



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
1. 大野東小学校が創立150周年だということを全校に周知し、10月にある式典を学校全体で（地域も含めて）盛り上げるために取り組んでいくというめあてをもたせる。 2. 各学年、委員会ごとに、自分達にできることやしてみたい取組を考え、計画を立てて実行する。 150年の間に起きた災害について調べてまとめました。（4年生） 150年後の学校を想像してかきました。（1年生） 昔の給食の中からクジラの竜田揚げを紹介しました。（給食委員会） 3. 式典当日、6年生の鼓笛演奏に合わせて全校で表現活動を行うなど、全校で式典を盛り上げる。 4. 活動を振り返り、これからの大野東小学校について考える。 →校訓である「敬愛信」について、全校でさらに広げていきたいという思いをもった。	児童にめあてをもたせるために 昨年度のうちから、「来年は150周年である。」ということ折に触れ伝え、盛り上げていきたいという思いをもたせた。鼓笛隊や校訓「敬愛信」など、歴史や伝統が受け継がれてきたことを再確認した。 児童の意欲を高めるために 記念キャラクターのデザイン募集など、実行委員会の方（保護者）と協力しながら様々な取組を行い、「自分達もできることをしていきたい。」という意欲をもたせ、主体的に活動できるようにした。 記念キャラクターのべにっち、ひがっち 児童の頑張りを認め、価値付けるために 記念式典の前後に、活動の様子や各学年・委員会の取組を校内に掲示し、お互いの取組を共有した。この一年で終わるのではなく、「151年目もよりよい学校にしていきたい。」という意欲につなげるため、1月から、みんなのよい言動を集めて広げる「敬愛信プロジェクト」を始動した。



3 成果と課題
◎全校で1つの目的に向かって取り組むことができ、自分達にできることを考えて、実行する際は、自主的に活動する様子が見られた。 ◎大野東小学校の歴史や伝統を再確認することで、これからも伝統を受け継ぎ、よりよい学校にしていきたいという思いをもつことができた。 ▲今年度だけの行事になるため、やりきったという思いが強く、次へつなげるという意識付けが難しかった。